

平成 2 4 年度柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時 平成 2 4 年 5 月 1 6 日 (水)

午後 2 時 ~ 4 時

場 所 柏原市立歴史資料館研修室

会議出席者

委員

木下百合子、塚口義信、綿貫友子、荻田耕司、梶川哲郎、
今西美和子、長尾一吉、蓑原 正

事務局

岡本彰司生涯学習部長、宮本知幸生涯学習部次長兼文化財課長、
桑野一幸文化財課参事兼課長補佐、安村俊史文化財課主幹兼歴
史資料館館長、山根航文化財課係員

記録：安村俊史

1．開会

安村館長より開会あいさつ

2．教育長あいさつ

稲田教育長欠席のため、岡本生涯学習部長があいさつ

3．委嘱状交付

4．委員紹介

5．事務局紹介

山根係員が新規採用

6．議事

会長・副会長選出

立候補者がなかったため、事務局から会長に塚口委員、副会長に蓑原委員を推薦し、承認を得る。

〔塚口会長による議事進行〕

平成 23 年度事業報告

(1) 歴史資料館関係 安村

報告内容については、資料参照。

【質疑】

○国分堅山家文書について

委員：松岳山古墳群に関する史料とはどのようなもので、成果を報告する予定はあるのか。

事務局：過去に紹介されているものだが、およそ 100 年前に紹介されて以来不明になっていた貴重な資料である。内容について、館報で紹介する予定である。

○小学校への対応について

委員：秋季・冬季企画展を小学生対象に実施していることは、小学校にとって非常にありがたい。今後も継続してもらいたい。

事務局：これまでも小学校との連携を重視してきたが、今後も重視していきたい。

委員：秋季の市内小学校の見学が少ないようだが、理由は何か。

委員：副読本等で深く学習しているため、資料館へ見学に来ることが少ないのではないか。

委員：年間の小学校の見学は、ほぼ変化ないようであるが。

事務局：秋季は増加傾向にあり、冬季は減少傾向にあるが、全体としては約1万人で、あまり変化していない。

委員：冬季の企画展の内容は、毎年替わっているのか。

事務局：毎年新たなテーマを決めて実施している。毎年展示内容を変えることと、新たなテーマに取り組んで、研究を進め、その成果を展示に反映させるためである。こちらの取り組み姿勢が、来館者にも伝わると考えて展示をしている。

委員：当館の事業への取り組みが、周辺の資料館にもかなり刺激を与えていると聞いている。

○新しい来館者の獲得に向けて

委員：少し前の柏原の歴史を紹介するような機会を設けてもらえば、多様な来館者を呼べるのではないかと。

委員：より多くの来館者を呼び込むことに関連して、柏原のハイキングマップの配布等はどうなっているのか。

事務局：広報広聴課や企画調整課で取り組んでいるが、一定の方針のもとに作成されていないというのが現状だ。

委員：たとえば、駅にマップを置いて、それを手に歩けるようなことにできないのか。

事務局：さまざまな事情もあり、駅などにあまり置いていないのは事実である。今後、対応を検討していきたい。

委員：そのようなマップが整備できれば、資料館を訪れてみようという人も増えるのではないかと。ちょっと遊び心をまじえたものを取り入れることができれば、なおいいのではないかと。

事務局：今後、関係課とも協議して検討していきたい。

○講演会等参加者の市民・市外者の比率

委員：講演会等の参加者の市民・市外の方の比率はどの程度か。

事務局：正確なデータは手元にないが、6：4くらいで、市民が多いと思う。

委員：リピーターは多いのか。

事務局：テーマを選んで参加する人も多いが、リピーターも相当数おられる。

委員：文化財講座のリピーターはどの程度か。

事務局：7割くらいがリピーターである。

委員：新規の方を優先することは考えていないか。

事務局：過去に新規の方の受け付けを1日早めることを検討したが、それは逆に不公平感を生むのではないかとということで、取り入れなかった経緯がある。新規・リピーター等関係なく、あくまでも先着順ということにしている。

委員：入館者数には、講座生等も入っているのか。

事務局：入っている。

○講演会等の定員について

委員：研修室の定員はどうなっているのか。

事務局：講演会の内容によって、机・椅子を設置して定員を調整している。

委員：防災面での配慮を十分にする必要があるのではないか。

○ちょっと昔の柏原をテーマにした展示

委員：昭和 20～30 年代の柏原を取り上げた展示を検討してもらえないか。

事務局：当館でもそのような展示を行いたいと思い、資料の収集や展示の検討を考えているが、企画展を行えるほどの資料が集まっていない。広報誌を通じて写真の提供を求めたこともあるが、まったく集まらなかった経緯がある。

委員：市民の方々から写真提供を受けるなど、市民をまきこんだ展示を考えてもらいたい。

事務局：考えていきたい。

(2) 横穴管理運営関係 桑野

報告内容については、資料参照。

【質疑】

なし

平成 24 年度事業計画

(1) 歴史資料館関係 安村

報告内容については資料参照。

【質疑】

○冬季企画展の内容について

委員：読み聞かせ活動の方々の協力を求める予定はないか。

事務局：考えている。子育て支援や教育大学との共同事業などを考えている。

委員：そのような市民活動をぜひ取り入れてほしい。

事務局：どうしても、資料を展示することを考えなければならないので、どのような展示にするか。どのような事業を行えるか、今後、検討していきたい。

○常設展示について

委員：開館 20 周年記念として、常設展示の見直しという計画が示されているが、現状でも常設展示は少しずつ展示替えされ、とりわけ近世の展示スペースが増えているように思うが、展示替えは頻繁に行っているのか。

事務局：常設展示の展示替えは、頻繁に行っている。とくに、近世の展示については、充実させてきている。しかし、「いつも同じ展示だ」という意見が多いのも事実であり、残念である。また、考古・古代の展示資料は、非常に充実したものと考えており、展示資料を減らすことは困難である。現在の展示スペースで考える限り、大幅な展示替えをすることができない。そうすると、常設展示の後半部分の展示方法を検討せざるを得ず、

現在、その方向で検討中である。

委員：当館の考古資料の常設展示は、非常に充実しており、特定の資料を見るために来館される方も多く、考古資料の展示替えは困難であるという考えはよく理解できる。

委員：個人的にはずいぶん見やすい常設展示になったと思っている。

(2) 横穴管理運営関係 桑野

報告内容については、資料参照。

【質疑】

なし

その他

(1) 周辺館へのアンケート結果について

報告内容については、資料参照。

(2) 有料化に対する来館者アンケートの結果について

報告内容については、資料参照。

【質疑】

○有料化について

委員：小中学生無料、高齢者無料にすると、入館料収入はそれほど期待できないのではないかな。

事務局：それでいくと、8割程度は無料になると考える。

委員：そのうえで、入館料徴収のために人を配置する、あるいは自動券売機を設置するなどとなれば、ほとんど収入は見込めないのではないかな。

委員：小学生から入館料を徴収することはできないだろう。

委員：現在、図録の販売代金等の収入は、どのように扱われているのか。

事務局：雑入として柏原市の歳入に入っており、資料館の予算には直接反映されていない。

委員：来館者は、貴重な資料を見学できるので、何がしかの入館料を払うことには、それほど抵抗感がないかもしれないが、それが資料館の事業費として使えないならば、問題が大きい。

事務局：市直営であるかぎり、その収入を資料館で執行できるようにすることは、法的にも不可能。

委員：市直営を続けるということは、市の方針として確立しているのか。

事務局：指定管理についての検討は毎年のように行われているが、市としては、直営を続けるべきだと考えている。

○来館者数について

委員：来館者を増やすという方針があると思うが、現在の入館者は団体の動員が多いのではないかな。自発的な来館者を増やさなければならないということではないのか。

事務局：現状で動員はまったく行っていない。自発的な来館者が大半である。それよりも、歴史好きの方が来館者の中心である現状から、それ以外の来館者を増やすようにという指摘はある。歴史好きの方々に特化しているならば、入館料を徴収するべきではないかという議論になっている。ただ、興味のない人を強制的に来館させることはできないので、新しい試みを模索して、少しでも多様な方に来館していただけるような事業を考えている。昨年度のぶどうの展示、イベントもその一環である。

委員：多様な来館者を求めるならば、興味をもてるような企画展を実施しなければならず、それでは、アイデアがすぐに尽きてしまうのではないか。尽きないように準備しておく必要があるのではないか。

事務局：柏原は古代と大坂夏の陣ぐらいしか大きなネタがない。

事務局：いろいろなテーマ、いろいろな手法で少しでも多くの人に来館していただけるようにと常に考えている。来館者をどれだけ動員できるかではなく、柏原市にとって、市民にとって意義のある展示を心がけているし、これからも、その方針で考えていく。

委員：さまざまな方を意識して企画展を実施しているのがよくわかる。そのなかで、むずかしいのはよくわかるが、若い人の来館者が少しでも増えるように努力してもらいたい。

委員：柏原市の7万人余りの人口で、入館者が2万人もあるのは十分だろう。これを維持できればそれでいい。無理に増やすことを考える必要はない。

委員：柏原市の展示解説などは、非常にわかりやすいと評判である。たとえば、ふりがなをふっているということだけでも、ほかでは見られないことである。

○その他

事務局：資料には、要綱・内規を掲載しているので、確認していただきたい。史跡公園内の樹木伐採についての基準についても添付している。昨年度の会議で出されていた提言等についての対応、広報関係資料も掲載しているので、参照していただきたい。

7．閉会

（終了 16 時 12 分）